校 禮 堂 文 集

|核禮堂文集卷二十六 關 未濟十五卦序卦雜卦二 序 極河洛之誕此在 和惠君定字著周易逃二十卷未竟而卒闕自 初諸儒黃宗炎氏毛奇齡氏 如放慎之也易家之 **欽凌廷堪次仲撰** 周易逃補序 水儒說之) 厖雜如王韓之 一傳德州盧運使序而刻之 字一 | 胡渭氏皆能言其非者 整朱人之 鼎 其 至

核禮堂文集繁卷二十六 也陸氏釋文日箕子之明夷劉向云今易箕子作該滋 **祚集解中後儒土苴視之而不以為易之準的是易終** 漢易最深者無過衛氏處氏其說今僅散見於李氏鼎 子者萬物方荄滋也其說出於孟喜弟子趙賓則荷 鄒湛云訓箕為荄討子為滋漫行無經以譏荀爽而箕 鳳為之最密世傳其紫至翻五世則處所注者孟氏學 盡亡矣雖然漢易豈易言哉裴松之三國志注引虞翻 爲幽渺不可知之書愚者怖之陋者鑿之而漢之師法 者亦孟氏學也漢書儒林傳乃曰孟喜從田王孫受 のでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmの 日翻高祖父故零陵太守光少治孟氏易至祖父

固之 交勝名で長り込っ一トラ 師 又蜀 固 所述 其 旌 也云受孟喜岩 師田生 德 闙 源 、趙賓好 鄭 自東漢至今未 而導其流 江 一昧經師之 氏干 欲 君 《補之自》 El. 遗 國屏 死時 也 氏九家等義 小數書後 惠 不 懼寡 君生 然有處之學幾 授受而敗學士之 獨 惠氏之門 可謂非豪傑之士 析之大疑不傳之 為易持 干餘年 喜 陋 序 间 且 敢屬 據 劉向之 諭 草癸卯春 巧 叫 疑 賀疏 胂 也 慧 絶 論者 易家 越易學 說 承 讀 通 其 事 IE 班

能為者江君屬余序之余以為江君 其所補十五卦引證精博羽翼惠氏皆余所欲為而 水が出る多名二 内 謂 二 再論獨惠氏之書象下傳家人女正乎內男正乎外 、未得見也次年客揚州汪谷甫始介余交江君 說江君則悉無之方之惠書殆有過之 有水井注水上有水上水之象等猶不免用 外謂五象下傳澤无水因注水在澤下故 體例同于惠氏茲 無不及也

則有 閣本 金 正其經文矣梭鄭注者則有休寧戴氏弁 一氏 所 嘉定金氏城 所 考定 **舛誤特甚崑** 引 振者 也 通 韼 歸 解 命之作序廷 者數十家凡經 明鍾 于至當以云詳校 一書而已先 氏所據者小字宋本嘉靖 注疏詳 人傑本: 山 顧 ~堪樂 九生此書則自宋李氏在 本陳鳳梧本至于 所校問 注 及疏一 《將以 儀 誠不虚也其經文 字 - 明監本 句之 重 校 買疏 刻 異 買 相

男女改 氏所 校 Ź 如 射

故此節經交全與大射同唯此三字異而 未有升筵之事謂降筵為誤誠然今以大 射略同無降筵之說則鄭氏所見經文本 誤今詳疏意亦當作胃字然則唐 上案禮之通例局骨體 資降筵三字當作 **兆節賓降遊北** 知少年饋食禮佐食遷所俎于阼皆西節春齊肺 堂文集《卷二十六 | 文已言肩不當重出且遺胃字則肩字即胃字之 知 則經文無于洗西三字 面答拜案 西階 不當 上三字蓋大射之前即燕 **、疏以賓** 列 初本尚是胃学也此 於 肺之下濟陽張 受獻訖立于序 四 夘 非資降進学 射儀經文 鄭注亦與大

刊定之嚴不使敖繼公臆為增政者關入焉則深於禮與先生合其後二條未審尚可采擇焉否也廷堪淺學三條肯廷堪尊釋疏文而得者其盥于沩世賀 巨第三

雖上哲 緯途徑之 奠 迷徐思之皆有 凹 司徹祭畢飲 鄉飲酒之 m 亦若 酒 謂 之主 禮之 舉 梦 >>// 何 其難 刨 細繟之皆 酒 人獻 例 鄉 其 苟其得之中材 塗 飲 也 而 資主 主 已矣如 例亦與之同 也 酒 徑 之主 其節文威 可躋也是 紭 序 獻 户主 鄉 介賓 飲 म् 故 分也乍觀之 酒此飲食之 固 獻 育主 五奥 卽 可 以勉 得其經 侑 鄉 m 飲 主 人也主 酒 受 緯 濃 如 驟 赴 閱

從諸節 间 酢 徹獻 及酬 司微獻尸獻侑及受 舉解 有 堂文集《卷一 一獻 資 弟 **绅飲酒獻賓** 後 之儀 獻侑之禮主 M 微無算 已有 生所奉之輝 鄉飲酒 鄉飲酒 侑 司徹 以發端鄉 鸭连煤 獻 之 旅 人主 介 但 獻 獻 酢 則 尸侑 及 酬 婦 作主 聚資 飲 荆 有豆選牢俎七清 無算爵也 主 舉復有獻 酒但使 資 人但薦與组 而已有 鄊 凡 飲 酬賓之解 JIL 酒 獻 司 長賓 異中之 人舉 則 徹旅 鄉飲 主 肉清 丽 觶 同也 酒 酬 有 自 爝 但 使

业 卿 畢王 聘畢 酒 畢體資 同 禮祭畢獻賓其 聘賓 世五々のフェンマンのパタニューコーコー 覿 納微庭實用皮即事禮之庭實用皮也昏禮使者 問 問 也此異中之 更 用來錦庭實用 八禮賓郎聘禮之聘賓 無 卿 以 面 授東帛昏禮 論 面 卿畢介 獻之 **卵及上昏禮** 也 叉 如 禮 例皆大約相 同也聘用圭享用壁面 面 馬卽 聘禮之聘享鄭此賓客之禮也 鄉飲 眾 授鴈卽享禮之授 私觀之幣用束錦庭實 納采納徵之屬其例亦與之 酒 面即聘賓之 序 鄉射 禮 畢主國之君禮賓 同 明日息司 可 鄉射之同於 壁也 私 觀學 問 JE. 一特性 介觀 卿 也 用 鄊 馬 面

面 之 使者 同 三 五于中堂 聘賓主 受鴈 之 丽 1 聘禮 禮 至 背 事 禮 巴 聘 而已 但 者 事 楹 既享未覿之 設 用 **海東**) 聘禮 · 将 賓 東帛 間 但 政 几 館 筵 朝 गिंग 禮賓 艜 及鴈 主 楹 E 問 服 小唇禮使者主· 一國之君皆皮· 卿賓及 业 此 之 際 如享 同中 餼 間 侑 醴以幣 其 問 例皆 之 廟 醴 卿 典 門 而 則 (問卿畢不) 也推之 人 弁 香禮 已 受 の服有襲場の 幣 約 但 元 筵 聘賓 堂 端 於 但 疵 同 擯 楊之 儨 中 丽 린 酌 但 连 相 醴 殊

同 牲 也 亚 獻賓長 饋 射 而出之信非大聖 以與為 同也 艺 廷 文 祗 堪 與夫 ___A 節 司 射射獻饋 其為 其 將 / 膠葛 祭食 飲 誘 詳 畢 不郊 射 勞 飲 初 同 隆 射 酒 輄 也 殺 能 之 之 之 而 而 王 序 例其 享庭實 爲 同 尸飯 再 也射 體 视 也 潛 示 主 Ž 釋 卿 所 玩 會獲 謂 旣 射 同 經通飲 大初則 其不 射 勝

四庫書存目載儀禮釋例一四庫書存目載儀禮釋例一 不可體例序慮其雷同輟而弗作者經歲後一例已而聞婺源江氏有儀禮釋例又見杭之乾隆壬子乃剛雜就簡仿杜氏之於春秋定上上之名: 修身之 宏綱細写 公食大夫 似欲 目必以例 各 合 肆習之餘 十二篇 周 類寥寥數頁蓋未成 禮 例 儀禮 爲主有非計訓名物所能篇如是者有年漸覺非他 一卷提要云江永撰 而為之者 輒 之 氏道 窟 定 撿 非他用 考 禮

草剣之 どく 自ま さって こここ 經意乃爲 通 服之例上下二卷日雜例 絲登山之 篇自漢以來說者雖多由不明尊尊之旨故罕得 例 卷日射 雕者 初花花十餘年豪凡數易矣困學之中 例者朱李氏如主儀禮釋官已詳故 封建尊尊服制考一篇附於變例之後不 例 則置之信者申之疑者 而未之 助 卷 12. 卷日變例 日飲食之例上中下三卷 知禮君子矜其失之煩而規之 逮 也於是重取舊 序 卷其為卷十三至於 卷 日祭例上下二卷日 則關之區為八類 日賓客之 回

				堪次仲氏書	起焉嘉慶四	オが全ろ生
1				 於寧國學署之	甚焉嘉慶四年咸在屠維協治日廛壽星之出	えーーー
				一把菊軒中	治日廛壽星	
	-			, V	之次歙凌	

閻 七十子後百家競起人自為學明王道守儒術者孟 益多然皆就考亭集注而奉畫之以爲科舉之用於本 子四考於是孟子時事稍稍可奪同年陳君鳳石博 小班焉自朱人取孟子以配論語及小戴禮 無所發明也矧求其時事而詳考之邪康熙中太 子也孟子有漢趙岐注荀子有唐楊倞注皆大 氏有孟子生卒年月考近吾友海寧周君耕厓有孟 名冠儕輩授經之 兩篇調之四書後遂用之取士 孟 子時事考徵序 服復撰孟子時事考徵四卷 由是說孟子者 記中大學 醇 極 原 無

加密 得鳳石及閻氏周氏實事求是蒐討靡遺而有卿 書以孟子荷卿同傳未當有所軒輕於其間 **勞及七國之形勢徵引賅洽考證** 鳳石屬余序共書爰并述其所 孔 オカルニング 孟 由漢迄唐無異辭者夫能有卵從和桃七十字而 E 遭 |篇自二三好古君子爲之枝正審定外 並 -넨 焉孟子曰颈其詩讀其書 鳳 舉此蓋出後儒之意於古未之前問也今孟子 陋者妄加 石此書 可謂知人論世之學矣竊惟太史公 刪收幾 失其真斯亦 見以質焉嘉慶 不知其人可乎是以 明備較閻氏周氏 儒林之 無過 丽 孟荷 深 恥 子 年 問 論 而

}				<u> </u>	<u> </u>]		<u> </u>	開催
交曹全丈夫、依二一十七			·						1	7/4
鬥					İ	j		j :	•	瑪
事					[<u> </u>		i	屋
E										Æ
女士				,		•				7
							ļ	•		1
た!					ŀ	-] }			小
						,	<u> </u>			At
		`	ĺ						,	33"
代 犯		-								尾之外都年思弟孩廷地
-										H
المب					•		·	1		一定
1										五
<u> </u>			,]		,			i	<u>不</u>
t .	. :								1	冰
, <u> </u>						¦. I			•	
				ŀ		[[!	į	过
序	•	ļ								. [4]
71		1			1	<u> </u>		ļ		
اميو					<u> </u>					月月月
	• ,						[•		
	•						<u> </u>			月
1				ŀ	•		i			
									·	
+						1]			: •
		ļ ·			1	1				
ļ		!						E.		
İ] , [
							j . j			
					1	l	,			
l					:	1				1000
		· .]				
1		I					100			

唐宋 之音古之 音 記 因 者 繁 鄭 郎燕樂之二十八調也故知聲而不知音昔人 燕 樂考 稪 濉 以調爲主而 調 譯 而 樂及所填詞金元人曲子皆注 所謂聲者卽燕樂之十五字譜也古之 而 相應改生變變成方稩之音又日聲成文 **所愚焉後之學者奉** 而附會於五聲二變十二律爲 原序 求其實者 不可用岩 調中 蔡季通去二 能乎自鄭譯演蘇 **所用之高下十五字次之** 字 為鴻實沿及近世遂 變而為 此 極婆琵 明各調名 欺 人之學 所謂 赶 譋 故 今 肵

辨之而於今之七調反以爲歌師末 是流俗著書徒沾沾於字譜高下 樂二十 で均 **禮文集《卷二十** 嗚 相 必措意甚至全 七 不 附 呼豈唐宋人所習者 調故二十八調今笛與三丹相應蓋 用黍律以琵琶好叶之琵琶四好故燕樂 和 八調於 調即燕樂之七商也其殺聲用其字卽 語 以 不 燕 則今琵琶之七調卽燕 樂宫調質焉 以正宫 問陋者 調譜 亦神奇不 又或依 之 不知為何物遂疑為 蔡 自 技皆 誤龍七調可 謝知音 氏 可測之 於 可哂之 樂之七 起 事耶 耳食 以 調 甚 琵 以 畢 互 曲

刂 應燕樂之七宫 雖言之成 凯 何所 此 禮堂文集 卷二十六 序 後 不然則以今笛參差其孔上幹律吕夫今笛尚 古樂 均必轉好移柱乃得之不適於用故 稽之於典籍證之以器數 取徑焉廷堪於斯事初亦未解若 也 調 為熊樂考 一至於 詳繹 不能 理及施諸用幾 児雅 以熊樂考之往 而細論之度幾儒者實事 七角朱 原六卷於古樂不敢妄議 樂 人已不用七羽 乎是背扣槃捫籥之爲學 如海上三 往累黍截 一旦始有所悟入 神山可望而 步大水者 竹自 也竊 獨 矜 取 燕 籌

樂之故不無葑非之采云爾嘉慶九年歲在甲子七月與同志者希書成未敢示人謹藏篋衍俟好學深思者無師無友皆由積思而得不似天文算術有西人先導與思之識不自意及此或者鬼神牖其衷乎此本孤學 無 也。 望欽浚廷堪次仲序

便造 明 と自意からからまっていると 邪盐鬼易蓋八難言樂者 分之中容非野馬塵 **鉱芒刀刃不足以容之** 不足以察之 云十七萬七千一 律者赢 數 轉叩之赤有 Z E 不明由算數之說泪之 泰始笛 何施 腕之 也然 律 用 数或 不雌乎若 將 匡謬序 Ħ 則律度之 以 偶差 埃 為黃 四十七稽諸 每恃 將以為黃鍾之 不足以受之即容矣受矣 失者陳之以虚 至什伯吾又 鍾之長 序 此以爲藏身之固荷 乘除損益 也黄鍾之 邪 經 十三三 否 實 果 恐 芯 非 邪吾恐 九十之 可 JIL. 以深 、離朱之 文也

晉泰始末有公會嘗製首律乃以終聲之律度 腖 禮堂文集卷二十六 此以考見其崖略於是條分而件繫之作 孺宋之沈存中皆嘗疑之特不能戶說以 對之辭以及梁武帝四通十二首尚存於史 悉 實 毀前人舊作而樂學益晦幸晉朝廂笛之 卷嗟乎所匡者寧獨尚公自哉 則光然蓋 比比皆是矣有識之士 胡沛 翟 樹 桃 : 晉泰 (爲竹 地論 如魏之 圓 制

譚之 傳十 鄰 禮堂文集卷二 序二 漸失主交辭者 終篇乃作序 西魏書後序 **歙凌廷堪次仲** 蘊山先生操 僭妄雖家自 三載記 旣成以示廷堪命爲後序廷堪受而 | 端委罕有當焉先生以金匱之 其弊或至於空疏寄褒貶者 夫班馬以降紀載选與自朱速 謂繼龍門之軌人自謂續麟經 擦 西魏書 十四卷几紀 考五表

季朝借垂於木德 爅石渠之選 陋卷帙 十餘年之中有休文伯起之明備無子京永叔之 之房喬以文帝繫年而高貴 禮堂文集、卷二十 可得言焉夫承祚以武皇作紀 為東觀之 詳於因草損益者其與衰治 關義 北朝遂可置 不廣條目悉具編年紀月以經之旁行邪上 無漏略未聞 網羅放失於干 規矩者矣約舉大 而長安四主竟乏專書豈因有 佛功就剛之西國乎是 拓跋末造附載於宇文 数百 序 (沖人陳志自進之良) 綱其善有六載繹微 而孝獻孱主 亂洵足以存南董之 載以上 編次事實 范 水運 史自

一文単立とした。日本公立・一十七 辨之是日存統其善二也至於仲達子上篇不見於當 陛之表章西蜀陸游馬令之纂輯南唐熟短孰長必能 帝儼存清河遽立水熙未改天平遂元然則抑彼鄴 **塗 献武文襄傳不列於元魏功業雖著人臣以終圖쬻** 扶茲關中齊寶炬於天王厠善見於列國方之蕭常 天祐後人尚右昇元何者聊紹劉宗蹔延唐祚况夫 協於是除太祖之追美大書黑獺削唐紀之湓稱直 李虎發古人未發之公抉前史未抉之隱是日正名 **距膺帝制乃僭案其時世固有依違揆諸史裁寧云允** 也寶符已禪於延康志士猶尊章武神器人移 序二

豐其部未艮其限故万紐效績於荆襄究非魏之 善三也若乃卿士之設悉倣周官 典標八目偶存棠谿之碎金于志寧志貫五 幼安誤收國志本未仕曹稽叔夜濫 **札**元 仍存於河朔袁憲莫擯於江左凡此之類更僕難終徒 狐乏志逕墜良多鉅鹿懷私 山之片玉裘集狐腋冠聚鷸毛是曰蒐軼其善四也管 叉若齊社屋 同時所未遑或後代所希有講明古禮尤宜愛惜 配帝聿崇郊祀之儀 ところ生物スーー M 叔朗西行陳鼎遷 屬國來 **刊落都盡所幸者杜** 而德章北 認合所領威規大語 王缓修聘覲之典或 八晉書何嘗臣馬 面而 朝間 具崑 君 M 聯

朱家之誼士以及子勛舉義攸之勤王衡其終始都 思政為諂伎巧言亂其阜白俗語流爲丹靑不合不公 可議乃或以忠作叛以順號逆皆是曲筆豈爲謹言 是曰嚴界其善五也毋邱諸葛魏室之盡臣劉秉袁 紀象也兼 斯六善運厥三長集簡冊之遺聞闡古今之通論其 未足為訓今一洗之縣從其實是曰辨誣其善六也因 ·孝武謀去疆臣非爲失德而橫謂斛斯椿爲羣小 功於庸蜀自屬周之臣子但錄其事不載其 版圖較 正光之推步較天象而益精焉其考疆域也 地 形 而更密焉其考氏族也釐代 序二 考

俾後之讀是書者有所考焉云爾 見儲 可輔沱詹事之全書太素逸篇曾入魏著作之 背於論世必當首肯鄭漁仲之嚴以律人亦爲心 所 劉 矣夫八代之書具存南北之史復撰宋景文之新 秘彙在上 徒所能窺其堂戶也哉用是撮其體 , 物同著薛子平之舊史與歐陽並傳別 未備者取法於遷固而加聚焉是書也雖劉知幾 一較官氏而尤詳焉其封虧征伐諸表也 一岸夫豈柯奇純之等所能望其肩背 一般諸簡 紹統續 則於 關卷 折 損

荷畏 勦說 茲 發之太和之 篇其文豐腴其體詳慎皇始之耆定英偉其才力足 馬能淆之平心 夫著素之 心禮堂文集、卷二十七 注焉然後盛行何休為左氏膏肓及杜當陽解焉 響遊 雷 顯經 後魏書音義序 :具良史之識也乃末學 同則直道終泯矣魏收撰後魏書氏 怒 別青蝇能或之審 尚 制度 則曲筆滋彰矣論史者當是是 如此況於史乎故作史者當善善 則自定也昔臨碩為 明備 其博雅足以張之未當 序二 視 膚受信 則自 知也異同之 周官發難 四 而 非非荷 及鄭 百 惡 辨 几

١,

武之始特紀元年者明夫臣攝而君 所未究是以有靈徵之志長孫 於 也序紀詳載源流法史記 所不詳是以有官氏之志象教元風 弗道 開唐書表世系之先焉養烏白鹿爭言 起之姓名 而交響舉 斯議崇竊惑焉蓋嘗綜其巨網 丁丑者著夫晉亡而魏 則優劣得失何自 則撫掌笑其短夫束 司馬歐陽之篇 述殷周 紹則春王 而知本末始終 月則 而 其書而 **托則 共和行政之** 丽 攘臂歎其 比於著 論之平文之 正月之文也道 焉列 何由 觀 而 置 聞 初 貫 其

史 喧 悄 伎 べん 調 地艺 쇸 固 圖 歟 則 所 或 於 なこと言 可 近 敀 酮 兄 賅 乖 固之 定 是 孫 魏 刊 齊 陳壽弟 之 他 披 占驗 文 典 有 <u>ک</u> د د ک 加 旣 如 宜 志 猖 討 成 此 律 釋 畓 穢史 豈 歪 論 訴 此 懕 於 老 之者 主 謭 蔚 是 甝 建 沈 4 معر 尚 宗 志 樂 史 約 乎 康 諸 故 飛 足 田 地 序 煩 則 此 灰 者 文宣 表 陸 本 主 妏 扶 青 业 操 於 扶 乎 乎 各 韶 穀 倘 遷 劍者 調 東 水 魏 此 抵 有 取 五. lfi) 臩 收 叔 斯 也 抑 書 功 足 於 于 編 内 尚 业 是 於 驂 眾 貨

黎和 乘骨豈 也或 後蓋援訴史之謝辭所調號為穢史者即訴者之 百藥之飯 傳是未與其子先侮其父輕薄殊甚府怨 以蓋其先征也所謂 **穢史必虚也案北齊書** 即訴者之所誣思欲引為左證也百藥不 当文体 亦 調收 識甚矣 自 藥 收 子常人之見亦 旣緣史筆 再考 不 獨 摭 魏 此 多燃於 當時之 收對高隆之 **酬助于陽休之受金于爾** 又不然也夫子孫之 願垂方冊之令譽故 魏收傳前則採伯 奻 人齊亡之歲至 牘 所言 抑且挾上 見隋書 世之 起之 情 於發家 何 辨據之 轨 李德 疑 自

深文之 恩 也 盜 道 諦 怨 |含如計 桓雞宣 既已 惟主 丽 謗書賞由蠶室孤慎世宗英主文 涉刺饑平津 正見其不虛美城之者深益徵其不隱惡也彼 殺戀之代恐難免入東矢於兩造指便房於 酷將軍屢敗艦 淋漓欲絶 悉心時循近古毀譽非其所較使處數婕 人民惡其上 一武為之變色南史直書程村齊 功 微悉隆 如衛霍暴其姦生之聰吏 編夷私意與收熟多幸而書 一怨毒所鍾何有為格乎故訟之 以帝 其事而激昂不平都尉生降 禄官猗布特升於紀東 如 張杜 卵至於 頗 原

邁陳勝項籍宣城握管并收文伯子陽白天保以前溯 例 理書之將何以書好學深思當知其意也又若三 校禮堂文集《卷二十七 子物莫能兩大禮定於一 也魯雖侯爵內諱崇之為公楚已王稱外攘卑之爲 與之末中原則十六國江表則二百年不書固無此 臧敦煌則責其私署此何以稱焉應之曰此春秋之 尉佗新室紫色餘分斤其名曰王莽且蘭臺操觚 點為僭偽南朝則呼為島夷徒 詬厲乎或謂孝武尚存亟進東帝字文未滅遽 龍附於晉簡塗轍所 小其名曰王莽且蘭臺操鄉不一尊故學君黃屋左戴贬其號 在國工莫踰何獨 河臨渭則别共 一馬燈 收

並全襲: 堅之處 交費を支集し化二十七 秋之例也孫林父之逐獻 而忘大德 爲齊臣安得不云爾乎尚吹毛索臧執珠等類自 衣狐裘者不嫌羔袖采葑非者無以下體學以 何書蔑有故攻子長之 陽茹柔吐 昭書鄭忽児永 圳 收作點處罕加 **严**皆不足為 门 排 剛 死節否正 逆 熙因赤 加 乃聲影 收病也且延壽北史君實通 順叉何以 、燉則 值 別趙璧易城可勝紫 **她而奔大統為黑獺所奉** 而剽書術侯祭封人之立 序二 然 偶生而百六 而 日崇勢利羞 **思世珍賞莫之能廢** 稱焉應之日 七 一競吠朝 賤貧摘

生之诗 寄托之所在也乾隆 接然而其情之可以移 不自 廚其詩集 **禮堂文集**《卷二十七 動 者 物者每三復而不能置茫茫然而來呼 生 而愛之展卷之 概之端 楓 金 山年 取其 何心也旣而 分體 也不仕幾三十 俳惻聽 解華 而 四十六年辛 際身世漠不 入者常一 稲 貀 剽襲其體格而已究 攻 金史先生本傳及文集 故不 序二 其出處又皆散見於 年其舊都之威 一往而不可窮其誠 王歲客! 可明言 相關古今渺 居 者 放君之 未能 揚 州讀 他 思

先生之出處本末有所考度幾先生之詩之命意有 所鬱結偶於 親蓋其天懷之所感激偶於 思也始知向之 而類次之等先生 八至丁已往來乎齊魯蔣 和陵川 出處本末天與甲午以前雖具金史本傳而自 此而意繫乎彼 所根墓銘皆未之詳蒐緝亦殊不易易 於少陵施氏之 事焉 相賞於辭華體格間者為已淺矣 細 所遭之時與先生所處之 而發之身處於元而心在乎金言 而案之隨處皆舊都之感故 趙晉魏之間行踪 一物焉而伸之其孤憤 於東 坡之 例以年為 **鄭**定

官學國附 年歲在 潛志元文類消 爲 季 老 辨 之其不可 共勉 卿 丙辰 之至 元之 以仕金時 稍得暇 旃 於其詩之寄托之 مرا 嗣 可考者關之 後 以率 仓 事 道遗 為上卷 亦擬為此今得 , 取 舊稿 人文 不獲 後 · 并雜采 北 稿)所在未 議 渡 儿 後 数 鄃 金史 之 誣 元史

可於信宋 爲 父曹立とて上という。 受氏氏 出臨 周凌人 和實本於 地 氏之 或莫 雄 見 唯 謂凌水名 姿 始 史 柳 于 子厚連 孫以官 說 鄭 陸 吳 同 始 樵 法 夾 將 通 於吳 州言孫 之 爲氏 漈 志 有 書 山塘 然 莈 氏 志 **%亦在陸孫後矣據摩**及員外司馬詩云凌 愐 統 則 族 泗 則字當從众叉考廣韻 祇則字當從水廣部 水 通 將軍父 略 序 _ 志 以 陋 有波縣竣 爲 在夾漈之 姬 姓 衞 廣 韻 一前較 雛

之辭未可以傳信也竊謂吾族受氏之由對康通上。 思也從久則凌與凌音義原可通數之二說者皆臆 也廣韻於水旁後字下注引吳志偏將軍為證而於公歲後加邑作邵袁氏出自轅濤塗後省車作袁也官為氏而字則當據廣韻從水作浚猶之邵氏出自之辭未可以傳信也竊謂吾族受氏之由當據通志 從水史記秦始皇本 作凌豈以地 從水之淩字也淩氏皆下注但云冰绫別無他 得 別無他語則當 紀陵水經地正義 日陵作凌 何

父曲星からした 二年官歙 邀者 本之 心以為定說也丟称之復始於元一官就州長史卜宅城北之雙溪是一世孫大德公之裔則其為吾衛所及世孫大德公之裔則其為吾衛所及世孫大德公之裔則其為自使松江及一世報吳晉諸語勒及陶侃所作偏將中戰吳晉諸語勒及陶侃所作偏將 以為定 肯 注 陶 侃 次 授江 北 軍 為 有 自 2 崇

方子 方子 方子 赤形 学 四 方子 赤慶 二年九月初八日 本 中 一 本 野 四 所 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	- Kierrie	Comments and Dec.		Silvanor.				
堪			級廷堪	賜同進士出身	世裔孫	并之於首云嘉慶二年九月初八日元一公第	也於是考吾族受氏之梗概并序其與吾歌同	木が、住口クイン・スーーコー

可容代習儒業十二二四門會不盡可微信也由 其宗 禮堂文集、卷二十七 又 之荒 幹 學哨 再傳至中丞公熟猷政事為習儒業十二傳至吏部公以 就新唐書宰 體矣吾凌氏之先 m 可微信也懷遠宮氏其 不可考 族 盆以大吏部公修家譜以徙居 第 相 高 相世系表所載而案之強 概 而古之敬宗收族遺 則 焉無前代附會之 序 唐 公以名進士起家始方共先於明洪武中徙自 意 因

 葭学之 學今年冬因事來宣城出其家譜屬余序之 百餘年矣中丞公娶於定遠淩氏海江西諸地者甚多其譜自宋迄 以為序而吾族百年水譜牒之事未 劉錬齋先生房是以不敢以不文辭謹據譜中 公文孫茂琴徵君以諸生舉孝廉方正 末而中丞公嗣 焉有放佚之 雙溪之上 見貽侔他 君 一而支派 . 雲峰已酉鄉武又與余 日秉筆者有所生 亦吾歙之所 明 末 處 有續任之 余旣忝 能 增 所 同薦

			النفاعيد وفديدة كالمنفئ والقانية أدواه	
変型をとくしていた。一十七			堪頓首拜撰	宗收族之意不致久而廢墜是所厚望焉嘉
2			好射粉授文	忍不致久而
序二			林郎寧區	廢墜是近
<u>+</u>			府教授	原望焉
			畑末 秋 凌廷	

自 靓 國 庖 禮堂文集《卷二十七 山 以 寧困學 此 茲 丁 之 學 經 其 别 鉤 齋劄 游 深 於類書及小說家也 遯 摲 ~審六 办也其 地 紀 縋 盛 劉 記 聞 弯 同 而 车 崑 同 不 較 學者所著 卷 山 最後之著 班 超象罔之索珠也 桐 皷 於六 得 顧 城 失 孫 氏 經傳注百家 謂 序二 區同 君 Ħ 錄者 觀書 稍 符 知 錄 稍衰於前 異不 邚 太 列其目於 翅雍 其批 綜 原 奉籍 閣 摵 四 巫之 述 卻 明迫 音有 導歉 子部 潛 別 學 邱 至

當之雖使見股侍御 Ħ 於外乎於是數昌黎為不可及矣符如屬廷堪序其 徒以煽孀寡學逡遁逾年昨開雕於秣废復寓書 固應 為完之不識考覈之學為何等甚且以類書小 敗悄主人因而積陋生妄華言自欺遊 世亦有籍 THE RESIDENCE OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY 不外乎劉氏七略之初旨方諸身 比骨寧人百許接武景盧伯厚而兼儒 如 此書不聘才競勝不夸多驚廣唯於實 談 新注公羊春秋其能塊生於中 一誠者聚爲 圃 事 合 說 自

		Salar est sa	أخالك ويروون					Carrie Mann.
校				弟	IJ	者	語	音
校禮堂文集《卷二十七 序二	,		1	弟歙凌廷堪拜序	爲	且	語者符如之族人季仇觀察鳳卿茂才皆今	言升權之丹鉛總錄其精粗深淺之判蓋有
堂		i		凌	序	同	符	稚
文				廷	可	在	如	之
.集.				堪	也	白	Z	丹
				拜	幕	下	族	鉛
卷			:	序	慶	試	:	總
					五	IJ	李	蛾
				1	年	延	仇	其
						堰	觀	精
					草	所	祭	粗
序					潜	見	鳳	深
		1		} 	潍	質	卿	及
			<u> </u>	} :	Z	ス	茂	乙
					威	如	オ	判
	·					不	育	盂
[五]			:		月	7.4	今	有
		}			子	漢	7	不
			<u>.</u>		酉年	漢其言	之善讀	可
)	年	言	讀	同
					思	即	書	目

而為隸與八分隸與八分又變而為楷書已盡 禮堂文集一卷二十七 及金銀 官掌節日貨 权重說文解字 象聲之旨所 而與害畫 **猫時有六書五日繆象所以夢印也徐錯日夢印** 更易古文變而爲 則蒸璽文是也然 銅為之至元王冕始易以石後 一玩物竝 印譜序 可頼 敍 用 日泰書 以等釋者說文解字而外惟金石 類 **璽節後** 而齊觀 摘書箱書變而爲小篆小篆變 則印章之 序二 八體 抑 何陋也夫文字之 五. 制其來遠矣漢 節者今之印章 日摹印又日亡 ᆟ 人遂目為 興 新 也 屈

極之自 可敷也 東平之 卿 以前無述之者始見於 文字之 黎以 者 武榮鄭季宣等砰汝上之 除重刻及拓本僅存者惟 孔謙韓勃孔街 為字文周時刻 石神 鍾 僅存者 張遷碑登封之太室石 爲周宣王時刻宋鄭漁仲以爲秦時刻 鼎之文無 君 **砰溧水之挨官砰柴陽之諱仁** rfty 민 孔 論矣石刻以石鼓文爲最古然 M 幾莫能 弇陋之徒第賞其筆畫之工整 **鬼** 美學 神濟 學之 景 杜少陵詩韋蘇州 辨其眞贋 一衡方 關 曲阜之五鳳二 纶 一种 鄢陵之尹宙 城武之 兩漢 韓 石 昌黎繼之 張壽 一年甎 金 君鄭 刻存於 砰 馬 砰 邻 唐 子 無 砰 固

小學之 五 求六書之本而但以工於章法姿態爲能事嗟乎其 鳳 者多旁索於古刀布泉貨漢瓦漢印之殘字借 交漕主丈夫

で

と

ニート

と 鳳二 三十種較之歐洪趙所著錄者已什不存 者惟漢 曹全碑鎮西之裴岑碑等統碑陰 以金石文字爲法帖而賞其筆畫之工整 印章著錄家有吾行學古編 二年甎及太室石 源流字體之遷變而刀布泉貨漢五世罕 年甎為 印自元以來輾轉仿效百出不窮於是不 西漢 剧 刻餘皆東漢安順以後物又 銘為篆書餘皆八分書故致 序二 及周亮工 碑側而計之 者 一其中惟 以稍 帷

程 印譜見示者遂疏所見於卷端而還之他日尹谿盡 **曾中之臧著書以問世則今日印譜之刻其亦鄧林之** 校禮堂文集卷二十七 是真有志於古之士非數典忘祖者可比客有 君尹谿讀書稽古深明六書之蘊復以餘技作爲 印典等書而印醋之作雪漁三橋 枝渤澥之一勺也歟 受業涇縣 胡 而還更僕難終 承謙 Eli

にく曲ずやこうとうとして 幘 校禮堂文集卷二十八 **鄥君覺菴家**臨 ク華則 籠 序三 荆卿市上高歌撫劍黃皮縛務以馳驅長爤登樓 頭而憑眺少年同學盡是 鄔覺菴詩序 庚子 **歙凌廷堪次仲撰** 刷刷之公子作僕僕之羈 幽薊雪花似席偏逢已敝之裘京華美 夙傳倚馬問閥閱則舊本從龍幼逐宦游壯 長白 號飛黃雙目如星 序三 輕肥先世故人半 人流連郭 身是膽 隗臺前 居

黎姬 於侯 杉心堂文生、卷二十 襲之荒宮時有鷓鴣飛 古蹟於投香浦 情之 端交集加 美 思作客局舟挂席寬親 到流 酒肆半 何處 跌宕蠻 既多兒女柔膓策 又以戆無所 涎之口將碎琴於 饒他撒撒未免 江榕葉 風瘴 風流結 侧指趙陀之故苑更無麋鹿來游葬 綠上新 週 雨愛眠蜑 上蕭條 長安 習 知於 市肆 顧盼多姿視麗景之 米貴大是 驅霆復 往俱深對此茫 拾翠洲邊徒步束書 自 珠岸漁父類過冷落花 滿樹蕉花 婦蘭船島 慚客有 一件英 難居 月夷 雄 何能待曳 紅 鮮 **.** 花能 骨 煙 屢 新 履 劉 深 門

識餘風之未泯一 頭已 腹蓋 戏經 逾三虎能開入石之弓才斡萬牛甘作百夫之 揮略展非同鄉 喪記 ŀ 賤 忍班 盾鼻旋磨丈夫安事毛錐壯士 何嘗但曉吟詩賦競病之景宗不止耑精 **胚悉寄篇章暫洩雄心故多傑作** 網成未貴臣 因人客思歸荷戈瓠子河干實羨從 子僑居之地 而劃艦熊 錢不受感遺愛之 柳營前而懷抱 朔長 卽 領虎頭願高飛 飢辭家紫石峰 加敷治 猶存背詢故 初 開 小試 須盤 而食肉投 所謂 頭托 一榜 桃 馬 花 軍

校禮堂文集《卷二十 厚報矣嗟乎抉譌摘失固云良友深情護短好諛亦是 三王介甫取僧於明九君誠快士彼獨何人 共細壤何期抵掌深談豈惟 以千秋巨眼指我之瑕疵是以沙石微攻轉獲 恨晚行當痛飲開孔座之清尊謬許賞音 病所以樽前現在到夢得結怨於奇章席 爱因变厚遂爾言狂竟效他山不憚吹毛妄索 勿期今視文孫於變水垂 頹唐以醉酒邊把卷不念懷 一片虛心恕予之狂藝 柳初齊邂逅方春 態而言 八斯時 一發質 S. C. Land Strategie

et see a troop, the land that the second as the	So prison de la sojece				989a - Jan	-			و معاقباً العما
松		•				<u> </u>	-	7	福日
論]					※:	- 逆
厦								类	[2]
圣	١						İ	大	笔
								方	報
集								落	
⊘禮堂文集 ≪七十十八						:		之糞大方落落敢加頰上之毫用志雅懷敬	復援毫報命心知難却顏汗何任小言詹詹
): 						45	A11
TE								取	拠
								加	雞!
+								烟	却
人	,]			F	酒
					[•	ماس مرف	
1				! !	:	.			
序三]].]					毞	何
	ļ	ļ ·						用	任[
]	法	
								704	
	-			<u> </u>		ļ		進	見
- Transacti									眉
								敬	詹
			'			{		瀬	在
]	世	1
,]			無	有
	ļ	, i		ļ	ļ	[·		語	佛
									頭
	<u> </u>			<u> </u>	<u></u>	•		<u> </u>	

,

校禮堂文集《卷二十八 唐宋以下何論焉唐人之詩有正有變朱人之詩亦 **行者則變而失其正之謂也今之翻新關奇者** 果有忠臣在肯放坡詩百態新又云奇外無奇更出 彌遠矣故詩當論正變不必分唐朱也元裕之云蘇 而不失其正者有變而失其正者學邯鄲之步去風雅 一有變唐詩之變變而不失其正者也宋詩之變有 波纔動萬波隨其日新者則變之謂也其日奇外 五國風有正有變大小一 **夫倡之百夫和之其於唐人之** 波堂詩集序 一雅亦有正有變風雅且然 序三 四

聽古樂矣同年陳子犀先生不隨流俗之好惡不爲 闰 倡而三數 染其筆端是真能得唐詩之髓者讀之如清廟之 **潜墨波堂集見示華贈高渾超軼等倫 縵而使人欲卧者不善為樂之過也子犀謬以予** 所轉移其為詩毅然以唐人為宗不獨唐以後之詩 矣果能沿波討 務去卽唐詩之變者亦矜慎所擇不敢苟同焉 始知天地 編調今之 源與見其精神之所聚 和平之音未嘗不足以感人 翻 新闕竒者莫不 於宣 時 極力推崇 習尚 城 無 洵

七子蓋 之詩乎子犀致身清要遭遇 宋之足辨也哉 枉之過正也今之談藝家自謂翻新關奇 **窾直指其癥結之** 公安竟陵之故轍然則救近日詩家之流弊其惟 一枚之 世屢持文衡成幾出其所學爲多士倡將見庠序之 而变譽也又莫不同聲 以質質勝則救之以文公安竟陵之取宋 生唐風旣盛之後 文集卷二十八一片三 下歌蹈德詠仁駸駸 所在平 拉排 而思有以救之不 抑隨尿口而交毀也夫 乎皆風雅之正聲又 \mathcal{F}_{i} 而 自知 知 挑 唐

藁不得甚悼之及余官宛陵士札衡長 STATES THE PROPERTY OF 香 蔛 嘉慶 吟草 因出君 是冬余京兆下第南歸君之孤士 戊辰阮伯元侍郎再撫浙江招余作西湖之遊 **两午七月余友章君酌亭卒於朐山之** 酌亭遺葉序 晨 此業乞侍郎序而傳之前青浦王述卷司寇 月夕毎展玩 門見寄於是校 三関統名之目酌亭遺藁嚴之 而錄之 過猶似故人依依 序三 并附以昔所記憶 祀 乃以 方六龄 陽年僅 共話時 君手嶷 竟君遺 也 服

				歲中秋後九日凌廷堪次仲序	國朝詞綜載君壽樓春一調亦從余篋中本
					中本錄入也是

爲 時 可如 れこうと言意味られる 終無 過 往 子之 於 ൬ 往 癸卯客京 後 不滿 是處也嗣 則 學 年尚奚 日縮 及 女白序 人意 他 則 又 買 勤 笑 借 不成年二十 攃 疑時 杏 是 師 日 及 經 洗馬 哉 見 史讀 m 作時文 於是 文 難 基 序 別有 胈 薬 之 1 人成以 與翁 斯言 退 有 者 丽 理 秘 自 里 傳 不 有 七 鄟 以 誣 乃宛 怖之 悲 爲 业 因 然 童 至 訓 是 與 印 姃 壀

均應 下第將南歸省 幼 加生又生 所云乎 夫子之言所 難毋以一 未嘗學時文且不知 乃取案上支數篇示廷堪曰此時文也寧有 是年主京 齊中去先生居不里許時 非城事然子今者尚未作時文也尚作之 伊月課時女 乃场之學於是遂受 跳而駒其志也及延堪 談矣夫古今文一而已豈有二 兆武者 親臨行先生謂之曰予作主司 四篇文 即先 理法為 成必請 生也 業先生之 廷堪年二 對先生縣然日 先生指 而廷堪以文不 再八 門 都寫天 一十有 援 例 子 理二 異 取 TO 盖 於 科

成進上嗟乎以廷堪之獨歸失學中間又惡於浮言 夜遭堂文集 のピニナス 京兆副 生之策 丁未從先 日子之文可中而 君次原名 榜前 講習之淵 生者 車南語 勤齋時文非日可存蓋 勵烏能及此古人有言得一知 以文質先生 可 一坤同縣! 訓 知已突近 源示子孫於不忘也京師同學者天 於南昌 明年已 奶 不中蓋天之 百武於江寧始領鄉薦 戊申客河南作文僅 先生喜日中矣榜發仍不弟先 **君樹思名梧實二** 者稍稍輕其所作 序三 以志生平遭遇 所以厚子也于必 己 一敷篇秋 得若干 可以不 之 艱 憾

CANCEL ARCHITICAL	والمراقع والمراجع المراجع المر			
	1		1	式先廷堪
	'			1
	3			九
			, l	3F
		' '	4	75
	1 1		1 .	先廷堪一科云
	} .		1	-
,		1		
i	.	(1 · i	科云乾隆甲寅欽
j	<u> </u>	ļ		
	}		1 1	エ
	1	Ì	i	古红
*		`		46
	*	i		
	lt l	1		12
·	¥ į		1 1	47
		•		
		}	-	23
	? 1		· 1	徐
	1		F 1	1 750
			,	凌
	1		•	廷
			1	
				堪
1				書
l .				1/4/
				一种
•				
				万瓜

章君酌亭後出游漸知治經得交儀徵阮君伯元談 詞 之餘時或及此蓋亦深於 復追 敗也又少作但依舊詞塡之不知宫調爲何 白石暗香句意名之日梅邊吹笛譜蓋詞人習氣亦 因 之不敢與論 時失學居海 學樂律少少有 千金之想乃編爲二 稿人束之篋中及官宛陵暇日撿出閱之頗有 也年二十許遂屏去 上往往 所 悟 一卷酌亭已前卒不得見矣舊 而宋 填詞自 詞者其他朋輩多以小道 11 11 人之譜多零落失傳又 娛相倡 意嚮學不復多 和者 唯 同

借所 琵琶證琴聲故燕 侍郎巡撫浙江命小史錄一本質之不審能傳於 其可考者注宫調於其下不可考者不注也阮君 廷堪次 用韻几 中所用四聲非於唐宋人有所本者不敢輒爲 異時 /仲書 有揚子雲當鑒 閉口不敢關入抵齶鼻音至於抵齶與島 樂二十八調多與雅樂異名也今 此苦心也嘉慶庚申端

發 幾 自京師 秦岩 此 一十年矣時齊將以付梓屬余作序余以爲近時 廀 舸 獨 則 丞相 歸時齊始 船 未之及何也余友程君時齊取曹鄴 太真之 珠傳奇序 顶 海上時時過 行楊 馬或離或合然晤時 及 一腹事 姓蘋 此句皆明指時事說杜詩 出定本見示蓋至是稿比八易 附之名 則 落覆 梅 如之名 相商定未 日 白蘋蓋 必 斛珠歲在 也此詩故多感 問是書癸丑冬余 爲太眞 二年各以事他 者 丙申 梅 往 恢 往 処傅 旃 忽 慨 始 穿 忽

若以梅如復幸少陵登科僅目之為梨園補恨事則淺 校禮堂文集、卷二十八 之乎視特齊矣 曲家未觀東籬蘭谷之面目但希青藤王若之職笑 校禮堂文集卷二十八 受業涇縣馬景酒岳青 **序三** 朱 A THE PROPERTY OF 樂 校